

特別ニーズ防災教育のこれまでとこれから（2）

—ポストコロナを見据えたオンラインの可能性—

企画者	富永 光昭（大阪教育大学） 長澤 洋信（四天王寺大学） 鈴木 浩太（四天王寺大学）
司会者	楠見 友輔（立教大学・日本学術振興会特別研究員）
話題提供者	齋藤 朝子（埼玉県立日高特別支援学校） 長澤 洋信（四天王寺大学）
指定討論者	大崎 博史（国立特別支援教育総合研究所） 富永 光昭（大阪教育大学）

KEY WORDS：特別ニーズ防災教育， 特別支援教育， オンライン， ポストコロナ

【企画趣旨】

これまで、日本特殊教育学会において、「テーマ：インクルーシブ防災と教育のこれから」と題したシンポジウムを2年にわたって企画し、地域及び教育現場が担うべき役割、特別支援学校のセンター的機能の可能性について検討してきた。昨年は、「特別ニーズ防災教育」という概念を提起し、新たに「特別ニーズ防災教育のこれまでとこれから」と題して、ポストコロナに向けた特別支援学校における防災教育の諸課題等を検討した。自然災害のみならず、原子力被害、COVID19等の感染症への対応も広く防災及び防災教育に加え、COVID19感染症パンデミックにより大きな影響を受けた特別支援学校の教育の現状と課題について討論した。

本シンポジウムでは、ポストコロナを見据え、障がいのある子ども等を対象とした特別ニーズ防災教育を展開する上で、有効な手段の一つと考えられるオンライン等の可能性について、実践事例を踏まえた討論を行っていききたい。

【話題提供者の趣旨】

1) 肢体不自由特別支援学校の取り組みからみえるオンラインの可能性《齋藤朝子》

特別支援学校の埼玉県立日高特別支援学校では、これまで防災教育について情報交換をしていた静岡大学教育学部藤井研究室とオンラインを用いた防災学習をすることになった。小学部の準ずる教育に在籍する児童を対象に「地震が起きたら?」「家の危ない場所探し」「避難とは?」「避難場所や避難所のマーク」についてわかりやすい言葉や障がいの状況に合わせた内容をクイズ形式で楽しく学べるように両者で協議を重ねてきた。

兼ねてから防災教育で交流のあった沖縄県立泡瀬特別支援学校を誘い、オンラインを活用することで3カ所を繋いだ授業を実施した。その際の工夫点や児童の気づき、様子について報告したい。

2) 先行研究にみられるオンラインの防災教育実践《長澤洋信》

コロナ禍においては、特別支援学校においても三密を避ける授業体制が求められたが、一方でICT活用やオンライン授業等が広く推進された。先行実践からは「異なる障がい種の

特別支援学校間での発表交流」「被災地域の特別支援学校へのインタビュー」「高校生による特別支援学校への出前授業」など、さまざまな取り組みがみられる。今後の特別ニーズ防災教育を「学校内外の人々のコミュニケーションを取ってゆくという能動的学習」や、学校と地域間の「相互交流に係るシステム」として発展させるために、オンラインは有効なツールなのか。実践事例を踏まえて提案したい。

【指定討論者の趣旨】

《大崎博史》

オンライン授業は、病気療養中の子ども達の学習を保障したり、訪問教育において、学校に通学することが困難な子ども達に対して教室と家庭等を結び、他の子ども達と一緒に授業に参加できることを可能にする等、多くのメリットをもたらしている。ポストコロナにおいても、今後も継続してオンラインの授業が展開されていくことが想定される。本シンポジウムでは、まず、ポストコロナに活用できるようなオンライン授業の利点について聞きたい。また、オンラインの授業でどのように防災教育を取り扱うと良いのかについての議論を深めたい。

《富永光昭》

ポストコロナを見据えた特別ニーズ防災教育の諸課題に対し、1) オンラインによる様々な障がい種別の特別ニーズ防災教育について、2) オンラインによる特別ニーズ防災教育と交流及び共同学習について、3) オンラインによる特別ニーズ防災教育と遠隔地交流について、の3つの論点を提起し、オンラインによる様々な障がい種別の特別ニーズ防災教育の独自性及び共通性、オンラインを活用した特別ニーズ防災教育と遠隔地交流の意義と可能性、オンラインを活用した特別ニーズ防災教育と交流及び共同学習、居住地交流の意義と可能性について問いかけ、論議したい。

本シンポジウムは「JSPS 科研費 20K03046 (研究代表：富永光昭)」の助成を受けたものである。

(TOMINAGA Mitsuaki, OSAKI Hirofumi, NAGASAWA Hironobu SUZUKI Kota, SAITO Asako, KUSUMI Yusuke)